

令和4年度 大阪府立狭山高等学校 第2回 学校運営協議会 議事録

11月17日 本校会議室にて開催

・学校協議会委員

湯峯 裕	桃山学院教育大学 教授
槇野 敏之	大阪狭山市立第三中学校 校長
染川 佳紀	立志館ゼミナール(欠席)
小松 茂美	大阪狭山市立公民館
トランティ美佳	大阪府国際交流財団
二宮 千恵	狭山高校 PTA 会長(欠席) (敬称略・順不同)

・学校側出席者

山田 達也(校長)	井迫洋一郎(教頭)	野中 輝己(事務長)
池田 輝政(首席兼3年学年主任)	大西 弘記(首席)	
小林 友宏(2年学年主任)	浦上武次郎(1年学年主任)	
岡本 宏之(教務部部长)	影山 孝雄(進路指導部部长)	
松村 毅(生徒指導部部长)	古川 尚幸(生徒会部部长)	
船坂 寛之(保健部部长)	磯田 圭子(人権教育推進委員長)	

[スクールミッションについての協議]

- ・(校長より) 前回の協議会からのアドバイスを受け、生徒・保護者・教員にスクールミッションについてのアンケートを実施した。
- ・卒業後、どんな力をつけたいか、という質問に生徒も保護者も自主性が一番多い回答だった。
- ・グローバルセンスとローカルセンスを兼ね備えた生徒を育てたい。

[意見・質問・回答]

・これからの社会にはファシリテーションが必要。これがポリシーというフォローシップではないかと考える。[委員]

・カリスマ性リーダーは協調性がなく、これからのリーダーは、パートナーシップの構築がキーワード。単純に誰かの上に立つリーダーではなく、協働的に課題を解決していく力をつけてほしい。
[委員]

・協調性より自主性をつけたいという意見が多いのは意外だった。[委員]
⇒協調性を身につけている生徒が多いので、自主性をつけたいのではないか。[学校出席者]

・その場の課題を見抜き、自分に何が出来るのかを考え行動できるのがリーダーである。そのような生徒の育成を。[委員]